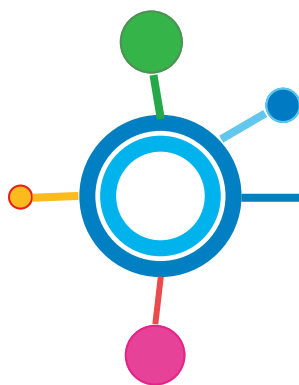


TOSSが推進する

子ども観光大使



TOSSは子ども観光大使を推進します



TOSS代表 向山洋一氏

観光立国の教育は、教師にとっても魅力的である。それは、自分の住んでいる地域の宝ものさがし、すばらしさ さがしだからだ。

両親に聞き、祖父母に聞く。地域の古老に聞く。史跡などを調べる。歴史のみならず、農業、工業、自然の良さを調べる。

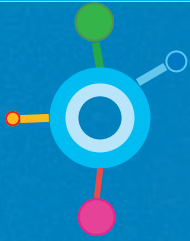
それを「観光パンフレット」「ポスター」「手紙」「ホームページ」「スローガン」「絵」などに表現するのである。

「子ども観光大使」として、これらの活動を進めることで、子ども達は、きっと地域が大好きになるだろう。誇りを持つようになるだろう。

自分が、住んでいる所を大好きになるのは、教育にとって極めて大切なことだ。

(「教育トークライン」2009.1より抜粋)

TOSSは、教育指導のスキルを、互いに情報交換しようという考えのもと向山洋一氏が始めた運動がスタートです。インターネットの時代を迎えTOSS (Teachers Organization of Skill Sharing) と名前を変えて再出発しました。具体的な教育問題に正対し、あらゆる教育場面での教育技術の確立をめざしています。21世紀になり、モノの豊かさの時代から生きがいの時代に変化してきました。すべての人に生きがいをもたらす社会貢献活動を行っているのがTOSSです。



子ども観光大使の趣旨

観光立国の基本概念である「住んでよし、訪れてよしの国づくり」の実現に向け、観光に対する興味や理解を教育の早い段階から促し、地域の魅力を発信できる担い手を育てるために、「めざせ！子ども観光大使」の認定事業を実施します。

子ども観光大使って何？

住んでいる地域には、良い所があります。例えば、昔から残っている神社やお寺。伝統的な行事、お祭りなどもあります。ほかの地域にはない故郷の味やお土産。それらを探し、知り、体験します。さらに、地域の良さを伝え、発信することで、よりよい地域づくりをしていこうとする子どものことです。

子ども観光大使は、例えば次のことをします。

- ① 子ども観光大使の会議を開きます。
会議では、子ども観光大使通信や観光チャレランなどの観光企画を考えます。
- ② 観光やまちづくりのことを発信

します。

全国の観光やまちづくりの様子を是新します。子ども観光大使としての活動をさまざまな形で表現し、伝えます。

- ③ イベントに参加します。
商店街や駅前広場、道の駅などでまちの紹介やお祭りなどに参加します。
- ④ 地域を紹介します。
他の県や外国の子ども達へ地域の良さを知ってもらいます。まちどおしの交流会をしたり、はがきのやりとりをしたりして情報を交換します。

子ども観光大使になろう

子ども観光大使になるには、次のことが必要です。

- 1) 地域の良さを学校、地域で学び、体験している。
- 2) 継続的な活動がされている。
- 3) 活動したことを通して、地域の良さを発信している。
- 4) 子ども観光大使検定など、一定の知識を身につけている。
- 5) クラス、グループ、学校などの単位で認定されている。

私たちの住む日本が好き

住んでいるまちが好き

だれかに伝えたいこの良さを

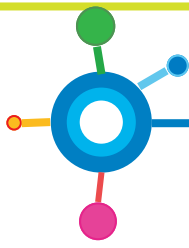
子ども観光大使は

地域の宝をみつけ

地域の人と学び

地域の外へ、県外へ、国外へ

地域のよさを発信します



こんなまちの宝が見つかりました



学び

子ども観光大使講座
カルチャースクール
学校での授業



体験

地域探検隊
まちの宝をさがそう
まちの昔を知ろう
郷土料理教室



自分たちの住むまちの魅力＝宝をさがしに行こう！新しい発見があるはず。見つけた宝について、地域の人に学んだり、体験したり。やがて誰かに伝えたいくなります。ポスターで写真でインターネットで。「子ども観光大使検定」を受けて『認定証』を授与します。

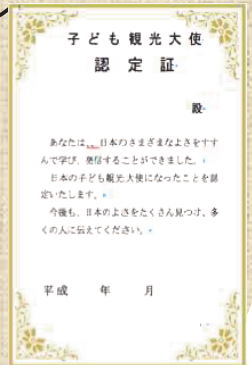


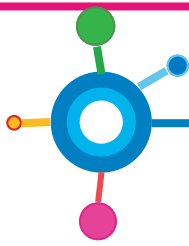
発信

認定

観光はがきを書こう
 ポスターをつくろう
 地域を案内しよう

子ども観光大使検定





子ども観光大使の全国活動事例

「住んでよし訪れてよしの玉川を歩こう」

静岡市立玉川小学校

5、6年生で「子ども玉川まちづくり研究会」を発足！地域の『玉川』をキーワードに「お茶」「自然」「きれいな川」「お年寄り」など、玉川の宝を見つけた。ゲストティーチャーから玉川の昔について聞き、お茶畑でお茶の葉摘みをして、昔ながらの「手もみ茶」に挑戦。玉川に対する思いや願いを「〇〇なまち玉川」というキャッチフレーズに込めて1枚のポスターに表現した。「住んでよし訪れてよしの玉川を歩こう」というイベントでは「歴史散策コース」「そば打ち体験コース」など4つのコースに分かれて、玉川を子どもたちがガイド。

「観光ブックの作成」

香川大学教育学部附属高松小学校

観光ブックで郷土「香川」の勢いを創る4年生の子どもたちが作成したのかと目を疑うほどのパンフレット群が完成。「観光ブック」が各都道府県、地域で作成されていくとまさしく「観光立国日本」の素晴らしさを子どもたちが伝えていくことになると思われる。



全国の事例を参考にさまざまな活動にチャレンジ。例えば「子ども観光大使会議」「観光はがき」「観光動画」「観光俳句」「観光パンフレット」「ポスターづくり」などを企画し、運営できます。学校教育だけではなく、地元商店街との連携、市のイベントへの参画など、全国でそれぞれの地域の特徴をいかした取り組みが可能です。

「パンフレット作り」

兵庫県篠山市立大山小学校

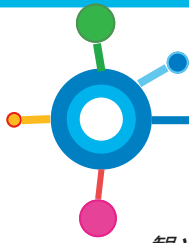
地域・市のまちづくり課と連携した2つのパンフレット作りを行う。地域の人々を巻き込んだ地元密着型の実践である。子どもたちは、地域の観光案内誌に地元の情報が出ていないことを問題にし、自分達の手で地域の宝物を調べた。それを実際に市役所の人、地域の人、地元の出身である退職された校長先生に教えて貰いながらパンフレットを作った。最終的に市長にそのパンフレットを届け、市長の思いを聞いた。

「観光ミニコミ誌づくり」

福井県越前市立吉野小学校

観光ミニコミ誌づくりを通して、越前市の誇る越前和紙を紹介福井の伝統文化「越前和紙」一点に絞り、子どもたちが追及していく深い実践した。一つの物を徹底的に追究された実践である。「岩野平三郎」という「ひと」を取り上げている。子どもたちは、調べたことをもとに、観光ミニコミ誌や観光レポートを完成させた。





観光庁も応援しています



観光立国を推進するためには、それを担うための人材を全国の各地域に育成することが重要です。自分の住む地域に対して、子どもからお年寄りまでのすべての方が理解をし、誇りを持ち、そして県外や海外から来てくださった人々をもてなしている姿、これが私の観光立国成功のイメージです。

若い世代、とりわけ子どもたちの世代からの人材育成を目的としている皆様の活動は、極めて意義深いものであると考えています。

観光立国推進に当たり、TOSSが推進し、活動している「子ども観光大使」をさらに全国に広げていって下さることを希望します。

子ども一人一人がその意識を高く持ち、「子ども観光大使」に任命されることによって、地域を担う人材が育成されることでしょう。

多くの方々が思いを共有し、「子ども観光大使」のような制度を全国に作っていくことへの理解を深め、力強く推進していただければと思います。

観光庁といたしましても、全国に「子ども観光大使」がつつぎと生まれ、地域ごとに特色のある、魅力ある活動を展開して下さることを期待しています。

そのための運動を全面的に応援いたします。

観光庁長官 溝畑 宏



子ども観光大使推進連絡協議会

〒142-0064 東京都品川区旗の台2-4-12 TOSSビル
TEL. 03-3787-6564 平日9:30~17:30 土日祝休
FAX. 03-5702-2384